

『いもち病注意報発表！』

岡山県病害虫防除所より水稻のいもち病（葉いもち、穂いもち）の発生予察注意報が発表されました。防除所による8月16～17日の巡回調査において、県内全域で平年を上回る発生率が確認されています。岡山西管内においても、JA 営農指導員による現地巡回でも多くのほ場で葉いもち病（図1）が認められています。また早生品種では穂いもち病（図2）も確認しています。



図1：葉いもち病

1. いもち病の被害

いもち病は葉にでる症状を「葉いもち病」と言い、葉いもち病が蔓延すると葉が枯れてしまいます（ずり込み症状）。もっとも注意しないといけないのが穂や籾に症状がでる「穂いもち病」です。この症状だと穂が枯れてしまい、籾に養分が行かず、収穫してもコメにならず、しいなや小米等になって減収してしまいます。

2. 今年度の気象条件

7月上旬に梅雨前線の停滞により降雨や曇天が続き、いもち病の感染好適条件が連続してしまい、多くのほ場で葉いもちが発生しました。7月下旬から8月上旬は少雨傾向により、いもち病菌も活動を停止していましたが、8月11日以降の停滞前線の影響により、温度・湿度がいもち病の発生の好適条件になっておりますので、これから出穂期を迎える中生品種・晩生品種は穂いもち病を防ぐため基幹防除を必ず行いましょう。

3. 防除

粉剤・液剤の防除は、出穂前の穂ばらみ期防除を出穂期の2～3日前、出穂後の穂ぞろい期防除を穂ばらみ期防除の7～10日後に行いましょう。

粒剤については出穂期の5～12日前が適期です。

出穂期：水田の全体の40～50%で穂の先端が出ている状態

岡山西統括管内の出穂期目安

きぬむすめ	8月20日頃	ヒノヒカリ	8月25日頃
にこまる	8月28日頃	朝日	9月2日頃
アケボノ	9月2日頃		



図2：穂いもち病（穂首いもち）

※本年は生育が早めに進んでいる傾向にあるため、ほ場の様子をよく確認し、防除を行いましょう。

※防除剤は、「JA 晴れの国岡山水稻栽培ごよみ」や県の病害虫発生予察注意報を参考に行いましょう。